

平成28年度中央アジアにおける総合的なリスク管理能力及び地域協力強化計画 (UNDP 連携)

チャプチャマ峠及びチャトカル峡谷雪崩観測所開設式の実施

10月11日(水)、合田大使はチャプチャマ峠及びチャトカル峡谷で行われた2つの雪崩観測所の開設式典に参加しました。同雪崩観測所は、日本政府が540万ドル拠出する「平成28年度中央アジアにおける総合的なリスク管理能力及び地域協力強化計画(UNDP 連携)」の枠組みで建設されました。そのうち、日本政府は両観測所の建設及び機材の整備に、約57万ドル拠出しています。

合田大使は挨拶で次のように述べました。「国土の95%を山岳が占めるキルギスにとって、自然災害は国民の生命と生活、運輸・交通、そして国家の経済に直結する脅威です。近年の地球温暖化により、山岳氷河の融解が生態系の生存を脅かしているだけでなく、水資源にも影響を与えています。これらの脅威に対抗するためには、自然災害のリスクを可能な限り低減しなければなりません。両雪崩観測所は、地理情報システム(GIS)を活用して雪崩が発生する兆候をいち早く検知し、近隣地域の住民に警報を発出します。両雪崩観測所の建設及び機材の整備が、道路を通行する車両を雪崩のリスクから守り、円滑な運輸・交通にも寄与することを願っています。」

